

写真:福岡城跡·冬景色

発 足 挨

鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会―

理事

長

石井

幸 孝

国際交流拠点、

岡城は、築城の名手加藤清正をし 去に天守閣と47の櫓が存在した福 48万。前の広大な敷地を有し、

は今日でも変わりません。幸いにも広大な城地や石垣 町の要になって生き生きとしています。 です。大きな城下町はどこに行っても、お城が今でも が薄く、また外から訪れる人にも影が薄いのは不思議 本丸・二の丸などの佇まいは、良く往時の形を残して じて世界に繋がる都市の歴史的象徴であり、その性格 います。こんな名城ですが、意外と福岡の市民の関心 鴻臚館とも重なり合って、アジアを通 て感嘆せしめた名城でした。古代の

の各地の訪問旅行も計画します。 ますので、研究活動や見学会、さらには福岡城ゆかり のが市中に沢山ありますし、研究者も大勢いらっしゃい 観桜会を計画しています。④福岡にはお城ゆかりのも 成功裡に催すことが出来ましたし、この4月6日には を開催します。昨年9月2日には 観光活性化にもつなげます。③お城にゆかりのイベント す。②市民の財産として活用し、名所に育てあげ 整備・保存し、ゆくゆくは天守閣の復元もめざしま を始めることにしました。待望の特定非営利活動法人 に、憩いの場に、名所にしていこうという、幅広い運動 ずは市民が関心をはらって、文字通り福岡のシンボル にすべき時代にはいっています。この貴重な財産に、ま NPO法人)として17年2月8日に認定されました。 これからの活動としては、①福岡城を文化財として 21世紀にはいって、日本は経済一辺倒から文化を大切 「観月の宴」を大

うではありませんか。ご支援願います。 城をもった福岡」にする、大きな市民運動にしていこ をいただき、一人一人がお城に親しみながら、「天下の名 趣旨にご賛同の方々には、会員としてふるってご参加

鴻臚館の福岡城跡歴史の観光の

NPO法人設立に至った経過。

が申し合わされました。 継ぐ団体としてNPO法人を設立すること にこの活動を発展させ、 る事業を実施し、 黒田都市サミット・福岡ゆかりの韓国ツアー 巡るバスツアー・観月の宴・福岡城跡お茶会・ ました。観桜の宴・黒田藩ゆかりの土地を 忌にちなんで有志が集い、 福岡城跡散策マップの作成等々多岐にわた 城四百年記念事業実行委員会」が発足し 平成15年4月、 解散に当たって、 平成16年3月解散いたし 黒田如水公没四百年遠 引き続き市民共々 残った資産を引き 任意団体 福岡

りました。

2ヶ月間の申請書類の縦覧後、

平成17

事長 務章・高倉清子・長徳重・監事 仁田辰治・ 稲員大三 活動が活発化 を構え此に依ってNPO法人設立に向けて 好意により、 拠点が出来たことになります その後、平成16年7月に読売新聞社のご この時点からNPO法人設立に向けての 中島敏行・ 一郎·岡部定 福岡市中央区赤坂に事務所 ·理事 理事長 新井治夫·井口雄哉· 郎 ・緒方世喜子・各 石井幸孝·副理

> 頂き、 至りました。以後、 岡城跡歴史・観光・市民の会を設立するに などを実施・活動してまいりました。 田 顧 長 問 任意団体として会員募集や「観月の宴」 久· 黒田 麻生 9月1日には任意団体の鴻臚館・福 一渡・山 長高各氏の役員就任承諾も 崎広太郎·田尻英幹·黒 引き継いだ資産をもと

9月15日には、NPO法人の設立総会を 開催し、10月6日に福岡県知事宛「設立 認証申請書」を提出し受理されました。10 月25日には福岡県公報第2309号に、当 房の設立認証申請が10月6日にあった旨、

2月2日認証書を受け取りました。 法務局への設立登記も2月8日に完了、 初めてNPO法人鴻臚館・福岡城跡歴史・ 初めてNPO法人鴻臚館・福岡城跡歴史・

10ヶ月余り、やつと設立することが出来まの負担などの義務が生じてまいります。 NPO法人設立の申し送りを受けてから

ます。した。多数の皆様のご援助に感謝申し上げ

も大変重要なポイントとなります。目的を達成していくためには、会員の増加目的を達成していくためには、会員の増加

ご協力をお願い申し上げます。 員増につきましても皆様の絶大なるご支援 まいりますので、会の運営は勿論のこと会 には、夢の会員数1万人を目標に活動して

(総務班:松井・渡辺)



らどんそば処 蒲鉾の蜂屋

博多常松本家



 株式会社 峰松本家

本店(立花寺店) 〒816-0062

福岡市博多区立花寺1丁目9-34 TEL (092)503-3687 (代) FAX (092)503-6280番

天神福ビル店 〒810-0001 FAX (092)503-6280番 福岡市中央区天神1丁目11-17 B1F TEL (092)714-0030(代) FAX (092)714-0146番

留

あることが分かってきた。 うとすれば可能である。本丸旧時櫓は現在 在していたという史料が発見されつつある。 問題の天守台の天守閣についてもかつては存 祈念櫓は復元しようとすれば可能である。 門が移築されて現存する。本丸の武具櫓 贈による名島城脇門と母里太兵衛の長屋 寺に移転されていて現存する。ここには名島 見櫓の部材は保管されており、いつでも復 は多聞櫓が建っている。三の丸の花見櫓と潮 して復元される見通しである。南二の丸に 下の橋大手門の近くに建っている潮見櫓で 本丸屋敷の平面図は存在するので復元しよ 城唐門も存在する。城内には平岡浩氏寄 元は可能である。本丸表御門は市内の崇福 部焼失した下の橋大手門が一 一層櫓門と

ばらしい。 復元が可能となる。新しく出来た読売新 りであるとも云われる。福岡城のかなりの 聞西部本社七階からの福岡城跡展望もす 過程では最も優れた黒田如水・長政の縄張 な石垣の曲輪は戦国時代から江戸時代への こうしてみると、本丸を中心とした複雑

平成十六年十二月二十三日、 一鴻臚館跡

> でも三例しかなく字体は崩れておらず最も 体で「開」の字が刻まれている。石印は全国 調査された。また木簡・木製品・須恵器 遺構と推定されている。北館の便所遺構が ンチ)が出土した。平安前期(九世紀頃)の ル)の橋脚遺構が検出された。南館の内部 なぐ木橋 回 されるかもしれない。 可能性もあるという。 優れている。「福岡城市民の会」の津田氏は に滑石系の一辺三センチ「石製印」には楷書 鴻臚館式丸瓦・石製印などが出土した。特 から梵鐘を鋳造した遺構(推定直径八十七 現地説明会」が小雨降る中で行われた。 「封」の字がある青銅か鉄の印が出土する 南館と北館の間には谷があり両館をつ (長さ二十メートル・高さ四メート 「開」字石印が解明 今

黄色に紅葉した銀杏のもと黒田二十五騎の 折々の美しさを楽しませてくれる。仲秋の クシオオカヤツリ・スイセンなど多彩で四季 ナショウブ・ヒラドツツジ・アジサイ・フジ・ツ 松前桜・三春滝桜)・ウメ・スイレン・ハス・ハ 名月を古城から見る宴も開かれる。秋、真 しゃくやく・各地の名所桜 福岡城跡は「花ごよみ」がある。ぼたん (特に淡墨桜

> はNHKステージで披露される 「おおほりまつり」は圧巻である。 荒津の舞

どんたくは福岡城から繰り出していた。 大手門前」に変えたら観光客にも便利であ 前」と変更できた。「大手門前」も「福岡城 れます。もともと正月の祝いに、松ばや 舞台」が福岡城跡の上の橋大手門に設置さ 西鉄のバス停留所の名も「平和台鴻臚館 今年度から新しく「福岡城どんたく演

舞

袁

が起きあがっていると聞いております。その のは福岡藩の黒田長政・母里太兵衛・野口 江戸城天守台を台命により、最初に築いた 成であった。 今、東京も「江戸城天守閣復元」の運

く多国語であってほしい。

もみすぼらしい。もっと大きく分かりやす る。観光といえば福岡城内の案内板は何と

学術班 荻野



昭和20年の空襲で消失した。



酒 诰 蔵

4,800 鍋料理・活魚造り ・ル飲み放題

10名様より承り中!

博多百年蔵

毎週土曜オ

福岡市博 多区堅粕1丁目30番1号 http://www.ishikura-shuzou.co.jp

092-716-8254

INFORMATION

尾小緒大大大大大大大浦岩井稲伊青青 花河方山穂塚塚島島神上橋福益藤木木 キ昭悠弘博 京泰汐善貞萬周眞紀幸 立三子道子正子治子郎雄逢介昭子雄威

映 子子秀忠子雄子公子郎允朗治子子通巖

)西日本新聞旅行り天盃が大盃がある。 3団体 塩笹坂榊権薦小後工木杵川川加加鹿楓 名 田野本原藤田松藤藤下築野崎藤藤毛 宜千京仁耶史裕愛賢裕俊博

杉末佐小桑川各小荻岡緒大石石秋秋 般会員 本岡藤池原崎務畠野部方野蔵井竹竹 清 恵玲暉賢 郁忠定世正利幸ヤア 一喜 チサ 明洋子子子治章子行郎子昭光孝ヨヨ (個人)

> 吉安森森宮母仁西西西中藤長因筑 紫 田武田 川里田野川

忠辰智芳憲敏金徳和千 次 樹藏守郎毅 一 之 友 ─治泉泉郎行助重喜代

福岡城歴史

(株) 山口油屋福太郎(有) ブレネット博多きものきろう会藤香会 (株) 黒田屋 黒田奨学会 明かるい町づくり協議会 会員 黒田屋 山口油屋福太郎 (団体

7団体

(2月18日現在

事事事 務局 局次局 員長長 理副理 事 理 事長長

仁長高各緒岡稲井新中石

喜一三

倉務方部員口井島井

市民にの館 問 黒黒田山麻 構成メン

田田尻崎生

世定大雄治敏幸 長長英広 太 高久幹郎渡 治重子章子郎郎哉夫行孝

波野中永中長徳鶴鶴鶴鶴津因谷田高園鈴下島し志 田田尾渕野谷永川川川 田 口尻山田木川野だ岐 ふ洋 弘大和武仁良靖隆キー慶哲憲満信邦襄久 里 -平由子次子二代均こ子 武信介子人美子子之立馬-

30

名

渡吉吉湯森森牟宮宮宮眞松松松松松益前古福林 切永田川永瀬田田崎崎鍋野永尾井居田田山元

福岡城の修復・復元を目指す市民

渡本松野鶴津因竹荻大伊島岡

辺村井田川田 田野山藤野部

忠弘紀 寬亮弘靖慶和 定 友

喜準行道子均郎

電話 092 17:

ファックス

電話・ファックスにてお申し込み参加ご希望の方は事務局まで芸設ステージにて多彩な催し有 幕内弁当・酒・おみやげ付き〉 加

春のお城まつり観桜の宴 特別観賞圏券三、〇〇〇円多聞櫓、本丸跡 舞鶴公園福岡城跡 四月六日(水)十二時三〇 分

春・秋二回の「お城まつり」を開催 観光客へ鴻臚館や福岡城のガイ 公報「お城だより」の発行(年四回 版頒布 員相互の情報等掲載) 鴻臚館・福岡城の歴史や文化等、 イドマップ等を制作 「福博」が有する伝統芸能文化保

鴻臚館・福岡城の歴史ビデオやガ 鴻臚館・福岡城に関する小冊子出 バスツアー(市内コース・県内外コ 鴻臚館・福岡城跡の史跡探訪ラリ ース等、黒田家ゆかりの地を巡る) ポジウムを開催 天守閣を語る勉強・研究会やシン 「幻の天守閣」の構築を目指す ー等を開催して理解を深める

務局だより

昨年三月末をもって発展解散した「福岡城四百年記念実行委員会」のあと、約一年間 解散時の約束に向 かって懸命の努力の結果とラッキーな出逢いの重なりで、NPO認証の組織づくりへこぎつけた。

素晴らしい活動拠点の事務所、約46㎡の読売新聞西部本社より有難い厚意による提供に加えて、旧会員や旧事務局員各位が更なる奉仕に、新なる仲 間を勧誘して頂き、十名余の皆様が自主的に作業割りをつくり、その姿を見て、各方面からの事務器材やTV・冷蔵庫・書庫に至るご提供を賜り、アッ ト云う間に事務所が完成した。

それから、嬉しい事は、それぞれに定年前の実務の素晴らしいエキスパートがそれぞれの技術をもって、新しい「NPO法人」の目的に向かって、技 の提供であるし、黒田家十五代御当主より「和以貴為」の書軸まで事務所に寄贈をうけ、文字通り和気靄々の作業が出来る事である。

それから多くの作業スケジュールの100%消化と目標に向かって、じっくりと、市民皆様への理解を高めく行く事だと考えております「NPO法人」 としてやっとスタートラインについた現時点、更なるご協力を切にお願いする次第です。会員の皆様お知り合いの勧誘方よろしくお願いいたします。

事務局長 岡部定一郎

SINCE 1968 「北イタリアのプチホテル」をテーマにした美しい老舗ホテル



西鉄大牟田線「薬院駅」北口より徒歩1分 地下鉄七隈線「薬院駅 | 1番出口より徒歩2分

ベネツィアングラスシャンデリアはじめ、ミラノで特注された家具・調度品、 北イタリアのマエストロ達の手による美術・工芸品など 館内はすべて北イタリアのアートで満たされる優雅な空間です。

鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会 理事

10-0004 福岡市中央区渡辺通2丁目7-TEL,092-731-1661 FAX 092-731-1669 http://www.takakura-hotel.co.jp